

GAP取得チャレンジシステム確認済農場への道のり

～より良い生産工程管理の実現を目指して～

1 課題の目的

近年、環境に配慮した農業の実践や持続可能性の確保が求められており、GAP（農業生産工程管理）が推進されている。畜産GAPは食品安全、環境保全、労働安全等のほか、家畜衛生やアニマルウェルフェアに関する項目が加えられている。

海匠地域には、より良い生産工程管理の実現を目指して改善に取り組む肉牛生産グループがいる。そこで、GAPの取組に理解を示した肉牛農家1戸を対象に、生産工程管理の改善とGAP認証取得に向けた指導を行い、地域モデルの確立を目指した。

2 課題の背景

(1) 生産工程の改善に関する意識改善のきっかけ

本活動の対象農家は、過去に注射針の残留が懸念される牛を確認不足のまま出荷してしまう事故が発生した。その時はすぐに気が付き問題とならなかったが、再発防止対策が求められた。そこで、注射針の使用記録簿の設置を行うなど、生産工程の改善に取り組んでいた。また、約2年前から第三者認証である農場HACCP認証制度*にグループで取り込まれるほど意識が高い農家であった。

*農場HACCPは、農場の飼養衛生管理を向上させるために、危害要因を防止するための重要管理点を設定し、継続的に監視、記録することで、農場段階で危害要因をコントロールする取組である。

(2) JGAP認証取得の準備段階のシステム

畜産分野では、「GAP取得チャレンジシステム」というJGAP認証取得の準備段階として手軽に取り組むことができるシステムが構築されている。そのシステムは、生産者自身が生産工程の管理状況の自己点検を行い、その内容を(公社)中央畜産会が確認する仕組みである。そのため、民間の認証組織の審査が行われなため、料金がかからずに、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の調達基準を満たすことができる。

3 普及活動の経過

(1) GAPの周知

まず、肉牛生産グループの会議時に、GAPの取組意義の理解を図るための説明と日本GAP協会が主催するJGAP指導員基礎研修の内容を紹介した。

(2) GAP認証に向けた指導

GAP認証に向けた指導は、(公社)千葉県畜産協会、NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター、東部家畜保健衛生所及び動物医薬品メーカーと連携し、月1回のペースで実施した。指導には、「JGAP農場用 管理点と適合基準」(以下、基準書)

を用い、まずは基準書の読み込みと内容の理解から始めた。指導会では、適合基準を満たすよう必要書類の作成や農場改善等を指示し、次回指導時にチェックと再度指示を出すという流れで実施した。また、指導会とは別に、日々の活動の中で文書の作成支援、農場内の整理整頓や文書の掲示などの指導を行った。



指導会の様子

4 普及(調査)活動で得られた成果

(1) 取組意義の理解と指導員資格の取得

肉牛生産グループの会議時に、GAPの取組意義の理解を図った結果、1戸が取組の意思を示した。そこで、GAP取得チャレンジシステムの確認済み農場としての登録を目指すこととした。また、認証基準等を学ぶため、経営主と従業員の2名がGAP指導員基礎研修に参加し、指導員資格を取得した。

(2) 農場内の改善

農場内の環境改善について指導し、入場者記録の実施や消毒槽の設置、農場内ルール等の文書掲示など環境改善ができた。



消毒槽

農場内の改善



燃料タンクの保管に関する指摘

(3) GAP取得チャレンジシステムの確認済み農場として指導会等により、取組開始から約1年で、GAP審査員による農場確認が行われ、GAP取得チャレンジシステムの確認済み農場として登録された。

5 問題点と今後の展開方向

本活動では、肉牛農家1戸をモデルとし、「GAP取得チャレンジシステム」の確認済み農場に至るまでの指導を行った。認証取得には、種々の記録付けや文書作成など、多くの時間と労力を要するため、相当の覚悟とやる気がなければ難しいと感じた。

今後の展開として、本対象農家はJGAP認証取得にも意欲的であり、継続して指導する。また、その他GAPの取組意向のある生産者について関係機関とともに指導を行う。

(旭グループ 普及指導員 小池 広明)